

令和6年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	授業づくり		部 会
2 研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ◆牧島 和也（吹上小） ・老沼 知香（大平南小）	・神戸 幸恵（吹上中） ・湯本 さや（藤岡中）	事務所員 ・野中 洋史 ・町田 知秋



3 研究テーマ

子どもたちが主体的に学びたいと思える授業づくり
～安心感のある集団を目指して～

4 研究の取組

（1）研究内容

児童生徒が主体的に学びたいと感じられる授業づくりを研究する。そのために、児童生徒が学び合いのよさ、必要性を感じられるような工夫を取り入れた授業実践を行う。

【実践に向けたキーワード（◎は特に重点としていること）】

◎1人では解決できない課題の設定及び提示の仕方

・学習形態の工夫（ペアやグループなどを中心に）

・学び合う場面の設定（単元計画、子どもが学び合いたいと思うタイミング）

→学習の中における“安心感”“所属感”につなげていきたい。（4部会のキーワードにも）

（2）研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月13日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月22日	研究テーマ・内容の協議
7月4日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		
9月19日	研究授業・協議 (藤岡中 湯本先生 1年社会)	1月24日	栃木市教育研究発表会 (オンデマンド配信)
10月7日	研究授業・協議 (大平南小 老沼先生 6年算数)	2月6日	協議・まとめ
10月8日	研究テーマ・内容の協議	2月21日	3年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・授業を通して、安心感につなげることが重要であると気付いた。授業中に「分からない」「困った」を言うことができる学級の雰囲気づくりが大切であると改めて感じた。
- ・研究してきたテーマは、どんな学級・学校においても常に課題として意識すべきことだと気付いた。
- ・1年ごとの取組が積み重なって、3年目の研究テーマにつながった。
- ・授業で提示する課題を工夫することで、児童生徒の主体性や安心感を高めることができると気付いた。

【課題】

- ・協働的な学びにつなげるための課題の設定は、単元によっては難しいことを実感した。
- ・学級だけではなく、学校全体の安心感も必要ではないかと考えるようになった。

6 さらに研究していきたいこと

- 限られた教科でしか授業実践ができなかったので、さまざまな教科で実践し研究を深めたい。
- 授業を通して、学級のみならず学校全体の安心感の向上につなげていきたい。
- 教科の特性を生かし、児童生徒がそれぞれ異なる意見や考え方を自然ともつことができるような課題を設定していきたい。